

## 公益財団法人福岡県すこやか健康事業団における健診（検診）実績報告

当事業団は、がん・生活習慣病の克服に向けて、科学的根拠に基づく質の高い健診（検診）、知識の普及啓発、調査研究等を行うために学術研究センターを設置しております。

特に、各種健診（検診）データの分析・評価を行い、予防医学等に関する調査研究に資するため、胃・大腸がん、乳がん、子宮がん、肺がん、生活習慣病、労働衛生の6部門からなる学術専門部会を設置し、各委員はそれぞれの分野の有識者で構成されています。

今回の報告は、6学術専門部会で分析・評価いただいた実績報告です。

### 【平成28年度健診（検診）実績概要報告】

平成28年度に当事業団で行いました健診（検診）総数は50万人近くになり、そのうち主なものは、がん検診306,323人、健康診査131,137人、特殊健診12,184人、特定保健指導884人でした。

また、学会には平成29年度日本産業衛生学会九州地方会、第76回日本公衆衛生学会総会、第56回日本臨床細胞学会秋季大会に各1題の計3題を発表することが出来ました。

今後も学術研究センターの活動をさらに発展させ、健診データの標準化を基盤に置いて、地域住民の皆様の健康増進と福祉の向上に取り組んでいきたいと考えています。皆様のご支援とご指導を引き続き宜しくお願い申し上げます。

平成31年3月

公益財団法人 福岡県すこやか健康事業団  
理事長・会長 松田 峻一良

平成28年度 がん検診実施状況総括(日本対がん協会全国支部合計と事業団実績)

		受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん	がん発見率
		(A)	(B)	(B/A×100)	(C)	(C/B×100)	(D)	(D/A×100)
胃がん検診	福岡県支部(当事業団)データ ※1	74,428	4,685	6.29	3,610	77.05	83	0.11
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	2,193,182	143,939	6.56	114,938	79.85	2,639	0.12
子宮頸がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	51,152	824	1.61	664	80.58	27	0.05
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	1,291,279	18,134	1.40	15,199	83.81	166	0.01
乳がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	56,464	3,855	6.80	3,462	89.80	172	0.30
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	1,282,756	60,018	4.68	54,053	90.06	3,053	0.24
大腸がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	76,533	4,335	5.66	2,844	65.61	121	0.16
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	2,535,814	153,320	6.05	105,937	69.10	3,862	0.15
肺がん検診	福岡県支部(当事業団)データ ※2	47,746	2,041	4.27	1,770	86.72	41	0.09
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	3,277,297	63,878	1.95	50,705	79.38	1,443	0.04

※1. X線検査のみの数値

※2. X線+喀痰細胞診のみの数値

出典:2017年度版・がん検診年次報告書より抜粋(公益財団法人 日本対がん協会)

1. 胃がん検診の実施状況

※早期がんを深達度M、SMと定義

	受診者数 (人)	要精検 者数 (人)	要精検率 (%)	精検 受診者数 (人)	精検 受診率 (%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反応適 中度(%)	平均年齢 ±SD(歳)
地域	40,755	2,827	6.9	2,518	89.1	74	0.18	56	75.7	2.62	61.9±11.3
職域	32,073	1,811	5.6	1,061	58.6	9	0.03	6	66.7	0.50	47.5±9.6
ドック	1,600	47	2.9	31	66.0	0	0.00	0	0.0	0.00	45.3±8.0
総計	74,428	4,685	6.3	3,610	77.1	83	0.11	62	74.7	1.77	55.3±12.8

平成28年度の胃がん検診受診者数は地域で40,755人、職域で32,073人、人間ドックで1,600人、計74,428人であった。要精検率は6.3%、精検受診率は77.1%、発見がん数は83人でがん発見率は0.11%、そのうち早期がんは62人で、早期がん率74.7%、陽性反応適中度は1.77%であった。厚生労働省が平成20年に作成した市町村事業における評価指標では、許容値は、要精検率11%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.11%以上、陽性反応適中度1.00%以上であり、当事業団における値は全て満たしていた。

2. 子宮頸がん検診の実施状況

※早期がんを臨床病期 I A1期までと定義

	受診者数 (人)	要精検 者数 (人)	要精検率 (%)	精検 受診者数 (人)	精検 受診率 (%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反応適 中度(%)	平均年齢 ±SD(歳)
地域	36,127	300	0.8	282	94.0	18	0.05	15	83.3	6.00	58.0±13.4
職域	14,109	485	3.4	352	72.6	8	0.06	7	87.5	1.65	42.7±11.2
ドック	916	39	4.3	30	76.9	1	0.11	0	0.0	2.56	45.5±7.7
計	51,152	824	1.6	664	80.6	27	0.05	22	81.5	3.28	53.5±14.5

※: 発見がんの内、上皮内がん15人を除いた場合、全体のがん発見数12人、発見率0.02%、早期がん数7人、早期がん率58.3%、陽性反応適中度1.46%

平成28年度の子宮頸がん検診受診者は地域で36,127人、職域で14,109人、ドックで916人、計51,152人であった。全体の要精検率は1.6%、精検受診率は80.6%、発見がん数は27人でがん発見率は0.05%、そのうち早期がんは22人で早期がん率81.5%、陽性反応適中度は3.28%であった。また、厚生労働省が平成20年に策定した市町村事業における評価指標の許容値(要精検率1.4%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.05%以上、陽性反応適中度4.0%以上)は、地域においては全て満たしていた。

3. 乳がん検診の実施状況

※早期がんを臨床病期 I 期までと定義

	受診者数 (人)	要精者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診 者数 (人)	精検受診 率 (%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反応適 中度(%)	平均年齢 ±SD(歳)
地域	40,822	2,670	6.5	2,524	94.5	145	0.36	107	73.8	5.43	59.1±12.3
職域	14,617	1,087	7.4	856	78.7	25	0.17	20	80.0	2.30	43.7±10.9
ドック	1,025	98	9.6	82	83.7	2	0.20	1	50.0	2.04	45.2±7.6
計	56,464	3,855	6.8	3,462	89.8	172	0.30	128	74.4	4.46	49.3±10.2

平成28年度の乳がん検診受診者数は地域で40,822人、職域で14,617人、人間ドックで1,025人、計56,464人であった。要精検率は6.8%、精検受診率は89.8%、発見がん数は172人でがん発見率は0.30%、そのうち早期がんは128人で、早期がん率74.4%、陽性反応適中度は4.46%であった。厚生労働省が平成20年に作成した市町村事業における評価指標の許容値は、要精検率11%以下、精検受診率80%以上、がん発見率0.23%以上、陽性反応適中度2.5%以上であり、当事業団における値は全て満たしていた。

#### 4. 大腸がん検診の実施状況

※早期がんを深達度M、SMと定義

	受診者数 (人)	要精検者 数(人)	要精検率 (%)	精検受診 者数 (人)	精検受診 率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反応適 中度(%)	平均年齢 ±SD(歳)
地域	39,188	2,469	6.3	2,003	81.1	92	0.23	56	58.7	3.73	63.0±11.0
職域	34,315	1,725	5.0	766	44.4	25	0.07	17	80.0	1.45	48.9±9.4
ドック	3,030	141	4.7	75	53.2	4	0.13	4	75.0	2.84	46.4±8.4
計	76,533	4,335	5.7	2,844	65.6	121	0.16	77	63.6	2.79	56.0±12.5

平成28年度の大腸がん検診受診者数は地域が39,188人、職域が34,315人、ドックが3,030人、計76,533人であった。要精検率は5.7%、精検受診率は65.6%、発見がん数は121例、がん発見率は0.16%、そのうち早期がんは77例で早期がん率は63.6%、陽性反応適度は2.79%であった。地域においては、厚生労働省が平成20年に策定した市町村事業における評価指標（許容値：要精検率7.0%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.13%以上、陽性反応適中度1.9%以上）を満たしていた。

#### 5. 肺がん検診の実施状況

要精検を胸部読影判定Eとした場合（喀痰検査のみ除く）

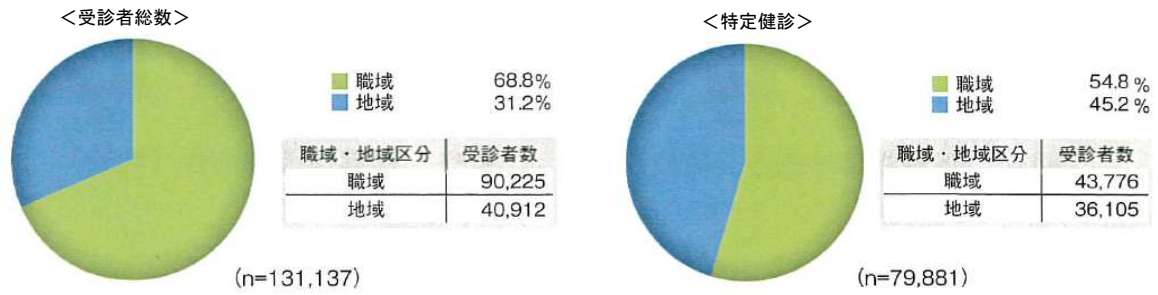
※早期がんを病理病期IA期までと定義

	受診者数 (人)	要精検者 数(人)	要精検率 (%)	精検受診 者数 (人)	精検受診 率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反応適 中度(%)	平均年齢 ±SD(歳)
地域	42,265	1,140	2.7	1,023	89.7	37	0.09	14	37.8	3.25	63.9±10.8
職域	2,265	29	1.3	21	72.4	0	0.00	-	-	0.00	53.1±10.7
ドック	3,216	24	0.7	15	62.5	0	0.00	-	-	0.00	46.6±8.5
計	47,746	1,193	2.5	1,059	88.8	37	0.08	14	37.8	3.10	62.2±11.7

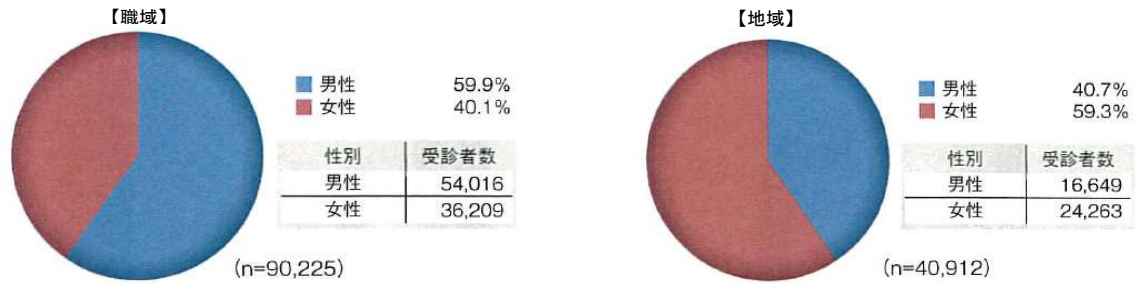
平成28年度の肺がん検診受診者数は地域で42,265人、職域で2,265人、人間ドックで3,216人、計47,746人であった。胸部読影判定E判定を要精検とした場合、要精検率は2.5%、精検受診率は88.8%、発見がん数は37人でがん発見率は0.08%、そのうち早期がんは14人で、早期がん率37.8%、陽性反応適度は3.10%であった。厚生労働省が平成20年に策定した市町村事業における評価指標（許容値：要精検率3.0%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.03%以上、陽性反応適中度1.3%以上）を満たしていた。

## 6. 健診・特定保健指導

### ①平成28年度 健診受診者状況



平成28年度の健診受診者総数は、地域40,912人、職域90,225人の計131,137人であった。そのうち、特定健診は地域36,105人、職域43,776人の計79,881人であった。



	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
男性	9,504	14,601	13,375	9,876	6,184	476
女性	7,905	8,997	9,375	6,685	2,983	264

(単位:人)

	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
男性	86	611	1,804	1,799	7,309	5,040
女性	262	2,183	2,197	2,597	10,967	6,057

(単位:人)

性別・年齢別にみると、職域は男性が約6割を占め、30歳代が最も多く、40歳代、29歳以下、50歳代の順であった。地域は女性が約6割を占め、年齢は60歳代が最も多く、70歳代、50歳代、40歳代の順であ

### ②特定保健指導実施状況

実施者数：884名（職域：620名、地域：264名）

#### 【職域】

	初回面談数(人)	評価実施数(人)	評価率(%)	体重増減数(kg)	腹囲増減数(cm)
積極的支援	294	235	79.9	-1.4	-2.0
動機付け支援	326	281	86.2	-0.9	-0.9

#### 【地域】

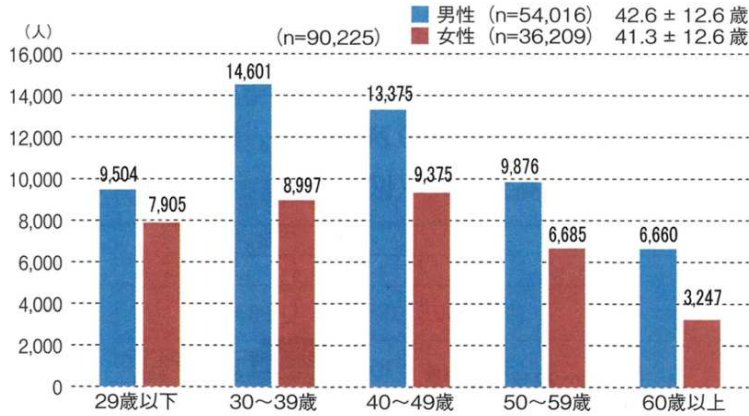
	初回面談数(人)	評価実施数(人)	評価率(%)	体重増減数(kg)	腹囲増減数(cm)
積極的支援	49	26	53.1	-2.8	-3.1
動機付け支援	215	191	88.8	-1.1	-0.8

## 7. 労働衛生

### (1) 一般健康診断実施状況

性別でみると、男性54,016人(59.9%)、女性36,209人(40.1%)で男性の受診者が6割を占めていた。また、年齢階級別にみると、どの年代においても女性に比べ男性の受診者数が多く、平均年齢は男性42.6歳、女性41.3歳であった。年齢階級別では、30～39歳が最も多く、次いで40～49歳であった。

#### <年齢階級・性別受診者数>



### (2) 特殊健康診断実施報告

特殊健康診断の項目別に判定結果をみると、管理Bは有機溶剤では42人(0.7%)、電離放射線では3人(0.4%)であった。石綿では、要二次検査対象が2人(0.4%)にみられた。

#### <特殊健康診断 項目別判定結果>

区分 項目	受診者数 人	判定結果											
		管理A		管理B		管理C		管理R		管理T		要二次検査	
		人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
有機溶剤	5,830	5,099	(87.5)	42	(0.7)	0	(0.0)	1	(0.0)	688	(11.8)	0	(0.0)
特定化学物質	4,959	4,725	(95.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	234	(4.7)	0	(0.0)
電離放射線	789	776	(98.4)	3	(0.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	10	(1.3)	0	(0.0)
鉛	114	113	(99.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(0.9)	0	(0.0)
石綿	492	485	(98.6)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	5	(1.0)	2	(0.4)

### (3) 作業環境測定

平成28年度の環境科学センターにおける作業環境測定実施状況は、鉱物性粉じんは55事業場で実施し、延単位作業場所数274、このうち第一管理区分が239作業場(87.2%)であった。特定化学物質等は67事業場で実施し、延単位作業場所数195、このうち第一管理区分が186作業場(95.4%)であった。特別有機溶剤は83事業場で実施し、延単位作業場所数220、このうち第一管理区分が204作業場(92.7%)であった。鉛は3事業場で実施し、延単位作業場所数7のうち第一管理区分が6作業場(85.7%)であった。鉛以外の金属類は21事業場で実施し、延単位作業場所数51の全てが第一管理区分であった。有機溶剤は110事業場で実施し、延単位作業場所数436、このうち第一管理区分が376作業場(86.2%)であった。騒音は11事業場で実施し、延単位作業場所数110、このうち第一管理区分が62作業場(56.4%)であった。ダイオキシン類は5事業場で実施し、延単位作業場所数29の全てが第一管理区分であった。

#### <環境測定実施状況>

測定対象作業場	測定実施事業所数	延単位作業場所数	延べ単位作業場の管理区分			
			第一管理区分	第二管理区分	第三管理区分	
鉱物性粉じん	55	274	239	14	21	
特定化学物質等	67	195	186	4	5	
特別有機溶剤	83	220	204	9	7	
金属類	鉛	3	7	6	1	0
	鉛以外	21	51	51	0	0
有機溶剤	110	436	376	40	20	
騒音	11	110	62	35	13	
ダイオキシン類	5	29	29	0	0	